

中学校統合説明会 2022年12月

～アンケート結果を踏まえた今後の中学校統合について～

1

目次

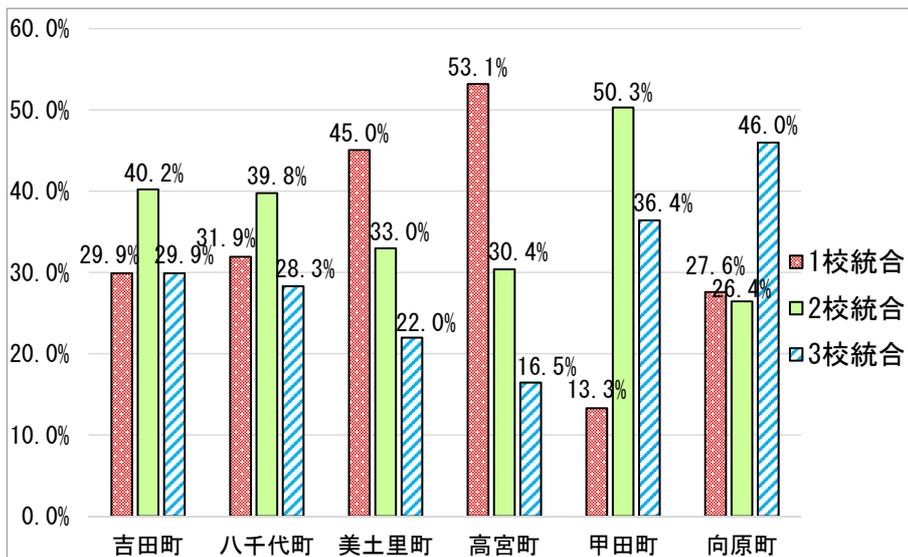
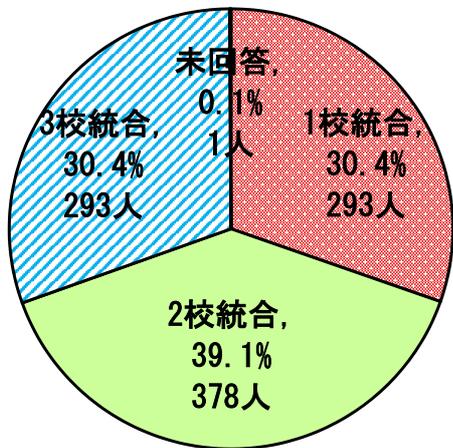
1. (1) アンケート結果
(2) 検討に当たって
2. (1) 学級数・生徒数
(2) 通学距離
(3) 部活動の選択肢
(4) 専科科目教職員の配置
(5) 必要な教室数の見込み
(6) 新しい学校像(案)
3. (1) 検討結果整理表
(2) まとめ
(3) 結論

2

1.(1)アンケート結果ー〈校数〉

・2校統合が39.1%と一番高く、次いで1校統合、3校統合がそれぞれ30.4%の結果となった。

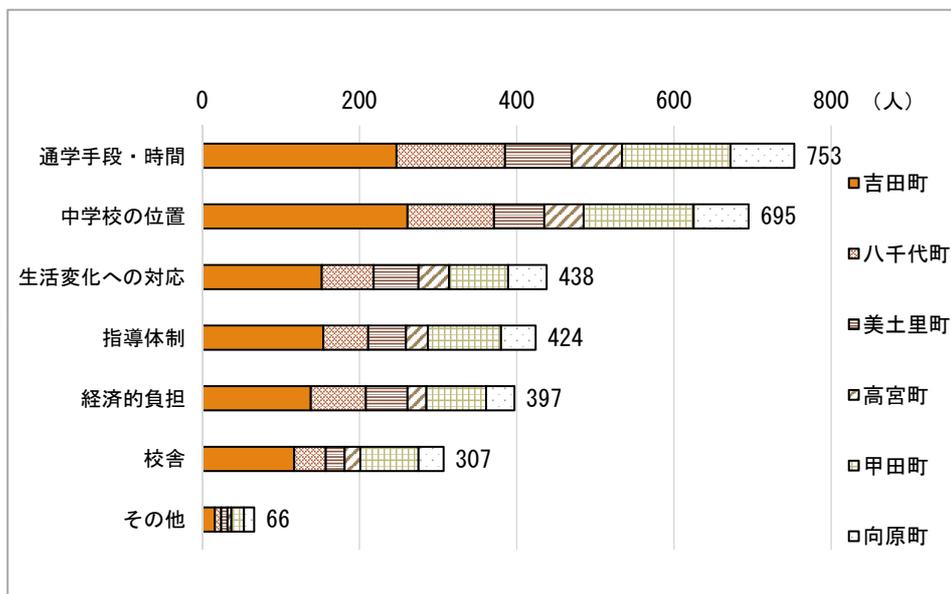
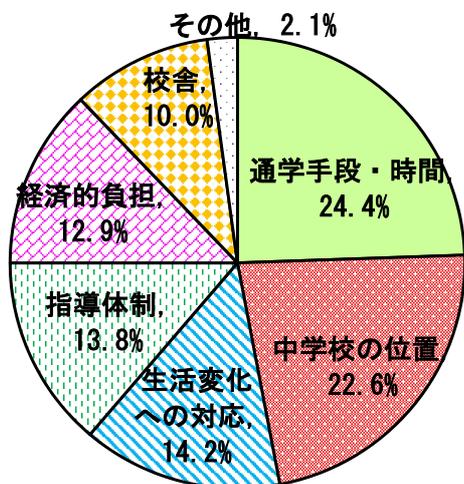
(1)校数



1.(1)アンケート結果ー〈心配なこと〉

・通学手段、時間が24.4%と一番高く、次いで中学校の位置が22.6%の結果となった。

(1)心配なこと



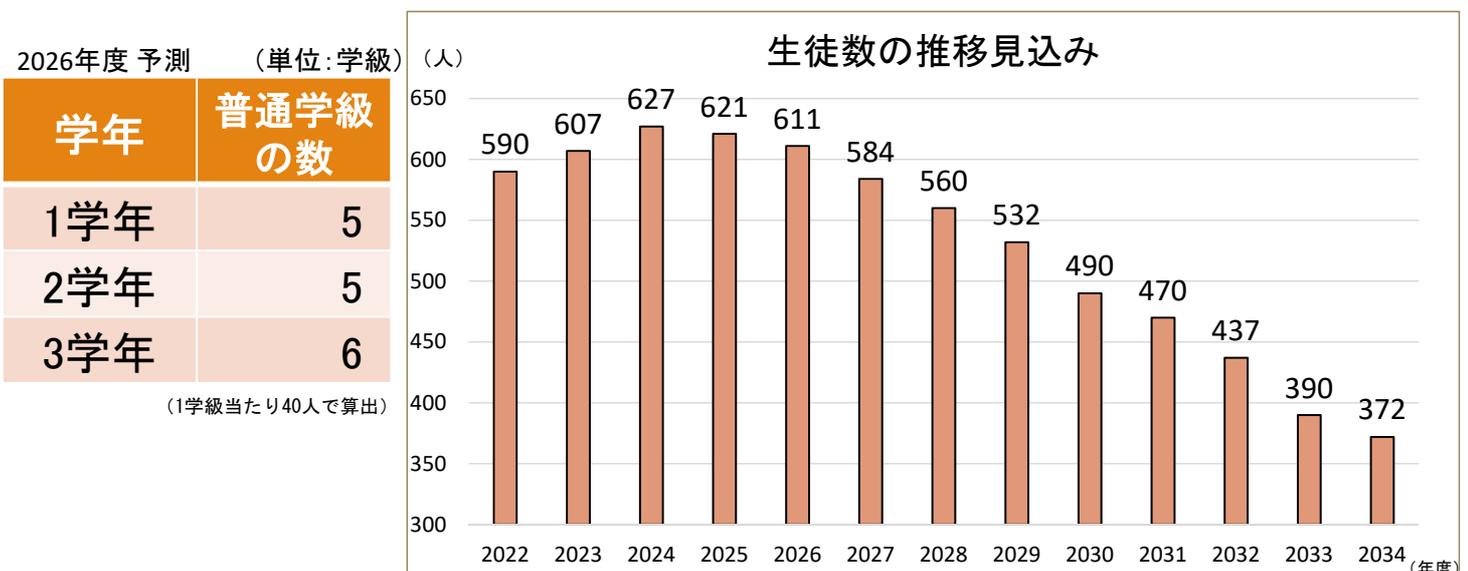
1.(2) 検討に当たって

- ・パターン2の場合、現中学校からの平均距離が一番短い。
- ・2校案の場合、パターン2で検討する。

2校案	グループ分け	現中学校からの距離		
パターン1	吉田グループ(吉田・八千代・美土里)	八千代～10.9km	美土里～13.8km (平均 12.4km)	パターン1 平均 11.8km
	甲田グループ(高宮・甲田・向原)	高宮～ 12.5km	向原～ 9.7km (平均 11.1km)	
パターン2	吉田グループ(吉田・八千代・向原)	八千代～10.9km	向原～ 7.1km (平均 9.0km)	パターン2 平均 10.6km
	高宮グループ(美土里・高宮・甲田)	美土里～11.8km	甲田～ 12.5km (平均 12.2km)	
パターン3	吉田グループ (吉田・八千代・美土里・高宮)	八千代～10.9km	美土里～13.8km (平均 13.8km)	パターン3 平均 11.8km
	甲田グループ(甲田・向原)	高宮～ 16.6km	(平均 9.7km)	
パターン4	吉田グループ(吉田・八千代)	八千代～10.9km	(平均 10.9km)	パターン4 平均 13.2km
	高宮グループ (美土里・高宮・甲田・向原)	美土里～11.8km	甲田～ 12.5km (平均 15.4km)	
		向原～ 21.9km		

2.(1) 学級数・生徒数－＜1校案の場合＞

- ・1校案の場合、望まれる学校規模として、クラス替えが可能な1学年複数学級が確保できる。
- ・生徒数は今後減少していき、2027年度には600人を切り、2033年度には400人を切る見込み。



2.(1)学級数・生徒数－＜2校案の場合＞

・2校案の場合、高宮グループ(G)が2028年度には200人を切る見込み。

2026年度 予測 (単位:学級)

学年	普通学級の数	
	吉田G	高宮G
1学年	4	2
2学年	3	2
3学年	4	2

(1学級当たり40人で算出)



2.(1)学級数・生徒数－＜3校案の場合＞

・3校案の場合、高宮グループ(G)が統合当初(2026年度)からクラス替えができない。

2026年度 予測 (単位:学級)

学年	普通学級の数		
	吉田G	高宮G	甲田G
1学年	4	1	2
2学年	3	1	2
3学年	4	1	2

(1学級当たり40人で算出)



2.(2) 通学距離— <1校案の場合>

・路線も多く、長距離輸送のため経費が必要。



9

2.(2) 通学距離— <2校案の場合>

・1校案よりは距離が短縮でき、経費を抑えることができる。



10

2.(3)部活動の選択肢－＜現状＞

【現状】 2021年5月1日現在

区分	吉田中	八千代中	美土里中	高宮中	甲田中	向原中
運動部	12 サッカー・野球 など	5 野球 など	7 バスケットボール など	6 バレーボール など	6 ハンドボール など	6 サッカー など
文化部	3 吹奏楽 など	1 文化	1 文化	1 文化	1 美術	1 文化

11

2.(3)部活動の選択肢－＜統合後＞

・部活動の選択肢が広がり、団体競技を多く設置することが可能

【統合後】 2026年度 予測

区分	1校案	2校案	
		吉田G	高宮G
運動部	17 野球・サッカー・陸上 など	13 野球・サッカー・陸上 など	15 野球・陸上・ハンドボール など
文化部	5 吹奏楽・家庭科 など	4 吹奏楽・家庭科 など	2 美術・文化

12

2.(4) 専科科目教職員の配置－〈現状〉

【現状】 2022年度現在

(単位:人)

区分	吉田中	八千代中	美土里中	高宮中	甲田中	向原中
専科科目教員数 音楽、美術 技術・家庭科	2	1	1	1	1	1

13

2.(4) 専科科目教職員の配置－〈統合後〉

・学級数が多いほど専科科目の教職員を複数名配置することが可能

【統合後】 2026年度 予測

(単位:人)

区分	1校案 16学級の場合	2校案	
		吉田G 11学級の場合	高宮G 6学級の場合
専科科目教員数 音楽、美術 技術・家庭科	4	3	1

14

2.(5) 必要な教室数の見込み

・既存校舎を利用する場合、いずれの案も教室が不足する見込み。

区分		1校案	2校案	
			吉田G	高宮G
教室数	現状	23 教室	23 教室	15 教室
	必要見込み (2026年度 予測)	31 教室	26 教室	18 教室

↓

新 築

↓

既存校舎と増築で対応

※教室数には、普通教室や理科室、音楽室などを含む。

15

2.(6) 新しい学校像(案)－〈校舎・教室〉

◆木材を利用した学校づくり（文部科学省）

①教育的効果の向上 ②地球環境への配慮 ③地域の風土・文化への調和

◆ICT設備、どこでも使えるWi-Fi環境の整備

◆読書・学習・情報のセンターとなる学校図書室の整備

◆新型コロナに対応した衛生環境、換気システムの導入

◆文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」に基づき、普通教室面積を約74㎡（現行:56.27～64.8㎡）、机の大きさを65cm×45cm（現行:60cm×40cm）を基本とする。



（絵：文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について（別添1）令和4年3月」から抜粋）

16

2.(6)新しい学校像(案) — <授業>

- ◆現在の6時限カリキュラムを5時限カリキュラムに見直し、これまでと同等の部活動をしながら、これまでと変わらない帰宅時間の確保
- ◆ICTを活用して電子教科書を取り入れた授業への取組
- ◆ネットを使った市外の他の中学校との共同授業の実施
- ◆未来チャレンジ探究学習（PBL）の充実



(絵：文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について（別添1）令和4年3月」から抜粋)

17

2.(6)新しい学校像(案) — <部活動>

- ◆部活動の地域移行に伴う外部指導者による指導

- ◆特色ある部活動の充実

- 例)
- ・サンフレッチェ広島等指導者が指導する男子・女子サッカー部
 - ・ワクナガレオリック等指導者が指導するハンドボール部
 - ・安芸高田市温水プールを活用した水泳部（年間を通じて活動が可能）
 - ・eスポーツ部
 - ・スケートボードやBMXのストリートスポーツ部
 - ・土師ダムを使ってカヌーやBMX
 - ・地域神楽団員の指導による神楽部
 - ・趣味など打ち込める同好会 など

- ◆文化部の充実

- ◆金管バンドなど小学校の活動から継続した部活動の実施



18

3.(1) 検討結果整理表

項目	1校案		2校案	
	長所	短所	長所	短所
学級数 生徒数	1学年複数学級が確保できる。	—	統合時は1学年複数学級が確保できる。	2032年度からクラス替えができない学年が発生する。
通学	—	通学距離が長くなり、経費が高くなる。	1校案と比較すると通学距離が短くなり、経費が低くなる。	—
部活動	部活動の選択肢が広がる。	—	現状と比較すると部活動の選択肢が広がる。	生徒数の減少により、部活動の選択肢が狭まる。
教職員 配置	専科科目職員を複数配置できる。	—	—	学級数の減少により、配置できる教職員数が限られる。
施設	校舎を新設し、最新の設備・環境を提供できる。	校舎を新設する為、費用が多くなる。	既存校舎の利用の為、費用を抑えることができる。	既存校舎と増築校舎で、設備・環境に差が出る。 将来的に、再び統合を検討する状況が生じる。

3.(2) まとめ



最新の設備・環境の整った学校で、自立した人間として主体的に判断し、より多くの仲間と協働しながら、新しい価値を創造していく力を育てていく

